

**2021 年度 長崎外国語大学 外部評価報告書**  
**—外部評価委員会（2022 年 1 月 24 日開催）実施報告—**

2022 年 2 月 1 日

長崎外国語大学  
学長 姫野 順一 殿

外部評価委員会  
委員長 相川 節子  
委員 上蘭 恒太郎  
委員 船橋 修一  
委員 富田 高嗣  
委員 山本 哲哉

## 1. はじめに

2022 年 1 月 24 日の外部評価委員会において、長崎外国語大学が実施した 2020 年度自己点検・評価の結果、及び 2021 年度に受審した大学機関別認証評価の現時点での対応状況についての協議を実施しました。

「長崎外国語大学 外部評価委員会規程」第 6 条第 5 項に基づき、本委員会としての評価結果と提言事項を以下 2. から 4. のとおり報告します。

## 2. 2021 年度入学者選抜について

### 【評価結果】

「入学者受入れの方針（AP）」に沿った入学者選抜の適切性の向上のため、2021 年度から口頭試問、小論文試験等を新たに導入し、受験者の論理的思考力や主体性を重視する姿勢を打ち出していることは、昨今の高等教育が抱える課題に対応するものであり、高く評価する。また AP の適切性の検証のため、入学者選抜結果と卒業時学修成果到達度自己評価とのクロス分析を実施するなど、積極的に学生の自己評価を活用した教育の質保証に取り組んでいる点も肯定的に捉えている。

### 【提言事項】

- 1) 今後、上記分析結果に基づく改善に取り組み、学生が入学時に抱いていた意欲や志向性を在学中も持続できるよう、大学として引き続き注力することを期待する
- 2) 入学者選抜の段階において既に論理的思考力に係る評価を実施しているが、人材育成においても外国語教育における論理的思考力、コンテキストを把握する能力の育成を重視すべきである。会話能力・文法能力ばかりに長けた即戦力ではなく、当該異文化の様態に依拠した独特の思考様式を汲み取り、これらを踏まえた意思疎通を図れる人材育成を目指し、この点を入学者選抜のみならず人材育成全体の一つの重点に位置付けることを

希望する

- 3) 今後、再び海外からの入学が可能な状況となることを見据えて、ダブルディグリープログラムの更なる活性化や、海外大学等との共同入学試験の実施可能性についての検討が加えられることを希望する

### 3. 3つの方針に基づく教学マネジメントの機能性と学修成果

#### 【評価結果】

3つの方針、特に「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に基づいた教学マネジメントの機能性を担保するため、2019年度以降のカリキュラムに対応するかたちでDPの規定する学修成果（汎用的能力）を分かりやすく再整理しており、これによって学生の自己評価の的確さの担保に努めている。またディプロマ・サプリメントにおいて学生自己評価と教員評価を併記することで、その懸隔を学生に自覚させ、学修計画の修正を図るような仕組みとなっている点は理に適っており、学生の自己理解、大学の学生理解、外部者の学生理解に有効である。また、DPが規定する汎用的能力到達度の卒業時アセスメントにおいて、異文化理解、自律・積極性、協調・協働といった、大学時代に獲得すべきコンピテンシーの基本となる分野で到達度が高い点は評価される。

#### 【提言事項】

- 1) 汎用的能力を含む学修成果の学生自己評価・教員評価を実施するプロセスにおいて重要な位置を占める学生面談の質を高めるべく、不断の努力がなされることを希望する
- 2) 汎用的能力のうち「組織的行動力」のカテゴリに係り、「組織従属的な消極性や利己的な自己主張に陥ることなく、利他的で且つ客観的な見地から積極的な自己主張ができる能力」を、当該カテゴリの構成要素として加えることを要請する

### 4. 大学機関別認証評価における指摘事項

#### 【評価結果】

認証評価はまだ新しい制度であり、ピア・レビューの精神のもと、評価者との積極的な意見交換を通じて改善を模索していくものである。地方の大学が今後生き残るためには、オールラウンドな大学像を志向するのではなく、それぞれが持つ良さを尖鋭化させることが必要であり、「世界がキャンパス、キャンパスが世界」というキャッチフレーズのもと地方圏唯一の外国語大学として新長崎学研究センターや社会連携センター等、ローカルに根差したグローバル化の取組みを推進していることは高く評価される。

#### 【提言事項】

- 1) 上記の「尖鋭化」の一つの方向性として、新長崎学研究センターの研究成果等、本学が持つ独自性に富んだコンテンツを、外国人留学生教育やICTの更なる活用、本学の特徴を活かした多言語化等によって広く発信することにより、長崎の魅力の海外PRに貢献することを希求する

- 2) 「海外インターンシップ」科目を本学の特色、外部へのアピール要素として位置付け、グローバルに学びローカルに考える形を具現化する方策として発展・充実させることを提案する
- 3) 認証評価にて指摘のあった「職員の採用・昇任に関する規定の不在」への対応として、教職員の人事評価システムの導入と改善を進めていくとともに、その際、社会的要請に基づき、課題発見力や問題意識といった要素を適切に評価するシステムとするよう要望する。併せて、教員評価において、これら社会的ニーズが高い能力を伸長させるような授業を積極的に実施しているかが点検されるよう希望する
- 4) 認証評価にて指摘のあった医務室への有資格者等の配置の問題について、各種法令との整合性を担保しつつ、医療機関及び校医とのオンライン連携による解決を模索されたい
- 5) 人材育成においては、短期的な知識や能力の獲得にのみ捉われるのではなく、中長期的な成長の視点を持つことが必要である。目的意識を持ち、更に目的自体の必要性・意義を問い詰め、客観視できる能力の育成を標榜することを望む
- 6) SDGs の達成に資する取組みの促進、及び人材育成への積極的な導入を提案する

以 上